

3月23・24日のボランティア作業

Part2

さあ！今回は座席のクリーニングだぁ！

前回までのあらすじ

撮影・解説 小城崇史

今までは、客車の座席の掃除というと、箒でゴミや埃を払うことぐらいしかしていなかったが、室内クリーニングを本業とする伊東にお住まいの佐々木さんがサークル・メンバーに加わった事で、作業が大幅にパワーアップ。本格的機械で水を使った画期的な作業となった。

さぁ、今回はどんな展開が……。

座席はバキュームを使う前に
洗剤を吹き付ける



そして、洗車ブラシでこすって
汚れを浮き立たせておく

作業の合間、大鉄技術サービスの岡本さんとボランティアで仲良くティータイム





室内のイスの乾燥には送風機が活躍！

室内でのイスクリーニングも
プロセスは一緒



オハニ 36 内では、大鉄技術
サービスの人とボランティア
の間で、白熱灯化についての
打ち合わせが行われた

オハニ 36 客室内の割れている天井の化粧板を補修しているところ



オハニ36の天井の塗料調合をする谷口さん



破れたシート布地は伊藤泰子さんが縫ってくれました



座席クリーニング・
床ワックスの終了した車内
床に輝きが戻った



さあ！今回は座席のクリーニングだぁ！

前回までのあらすじ

前はイスの掃除を中心に物語が展開したが、今回は更に踏み込んで(土足で汚すなよ!)白熱灯化の準備や、天井の補修にまで話は進む。

期待の大団円に向かって、さぁ、今回はどんな展開が……。

撮影・解説 森下義人

<座席のクリーニング>

今回の清掃・補修作業では、これまで恒例のようになっていた座席のフTONの「日干し→フTONたたき」という作業をやめ、本格的なクリーニングに挑戦した。

従来行われてきた「フTONたたき」という作業は、『恒例行事(いわば儀式)』のようになっていたが、実際のところ「百害あって一利なし、かえって劣化を早めるだけではないのか?」という指摘があった。「では、どうするのか?」

このようなサークルでの疑



発電機が到着するまでにフTONを外へ出し
水をスプレーでかけ、ブラシで起毛する

問に答えて下さったのが、佐々木さん(伊東市在住)だ。

座席・フTON生地奥に溜まったチリ・ホコリを洗い出し、吸い取るやり方はどうかと提案され、ご自身、仕事で使っているという高圧洗浄機を2台持参された。

2日目は、車内の床をクリーニングすると同時に、ワックス掛けも行った。ただし、床材に多数の亀裂があるため、座席と同じような『丸洗い』はせず、最小限の水と水溶性ワックスで拭き取る、という方法をとった。

『座席の丸洗い』と『床のワックス掛け』、いずれも今回初めての作業ではあったが、佐々木さんの分かりやすい説明と適切な指導により、能率よく作業が進んだ。もちろん、結果も上々である。

<客室天井の補修 オハニ36>

すでに傷みきった天井ベニア板の劣化を、少しでも食い止めるための作業だったが、結果はあまり芳しくない。

現状のベニア板は、木材が本来持っている樹脂分が飛んでしまっており、合板の命で



いよいよ高圧洗浄機の出番



**高圧洗浄機とともに、今回初めてレンタルした発電機
洗浄機のほかにも、電動工具の電源として大活躍した**

ある木と木をつないでいるはずの接着剤も永年の雨水と湿気によるものか、無くなっている。すなわち、ほとんど『ミイラ化』した状態だ。

天井板をそっくり新しいものと取り替えたいところだが、今回も準備不足で実現できなかった。(もっとも、誰からも

「やってくれ」とは言われていないが…)

とりあえず、ベニアの表面に走る亀裂に接着剤(建築内装用)を注入、固着させ、最後に塗装するという順序で作業を進めた。

これら一連の作業は後藤さんをメインに、谷口さん・伊藤

さん・そして私、森下があたった。そして資材等のほとんどを後藤さんにお世話を仰いだことを申し添えておく。

<便所掃除と扉の施錠調整>

トラストトレイン運行にあたって、接客設備の中でも重要なのが、便所及び洗面所だろう。一番汚れの目立つところだ。そして誰もが、見落としがちのところでもある。

ここは小栗さんが、黙々とひとりで作業をこなしていた。

また、施錠の操作状態はどうか、バラして丹念に調べて調整する。お客様が目にし直接手を触れる部分は、みがき出し、クリアーを塗ってゆく。まさに「一隅を照らす」作業だ。頭が下がります。

<白熱灯化・Part???>

白熱灯＝汽車時代の雰囲気再現する重要な要素。というものの、今年で何年目になるのだろうか？

白熱灯のガラス・カバー及び取り付け金具については、橘さんがメインとなって、各地の鉄道を捜しめぐり、一車両分の確保はできた。

問題は、中身の電球(スワン球)調達とガラス・カバー及び金具の取り付け方法だ。

特にその取り付けに関しては、サークルの人間が自分たちで取り付けた場合、運行中に乗客の頭に落ちてきたらどうしよう、という自らの作業に対する自信(責任)の無さが、白熱灯化実現に向けての最大の足かせになっている。



座席の背もたれの部分も『フトン』と同様に、高圧洗浄機でクリーニング。一連の作業は、3～5人で能率よく進んだ

クリーニングとともに「フトン」のほころびや破れを直してゆく。ご夫婦で参加の伊藤さん。こういう姿はいいもんですね！



とにかく白熱灯への交換に情熱を傾ける橘さん。
とりあえず、オハニ36の乗務員室の部品交換を行った。

(編集注：白熱灯の取り付けに関しては、会社側も運行の安全に関する問題なので、ボランティアだけにはまかせておけない問題だと考えているのではないかと思います)

ということで、今回、大鉄技術サービスの方をお招きして、ご意見・判断を伺ったりもし、今後への参考とした。

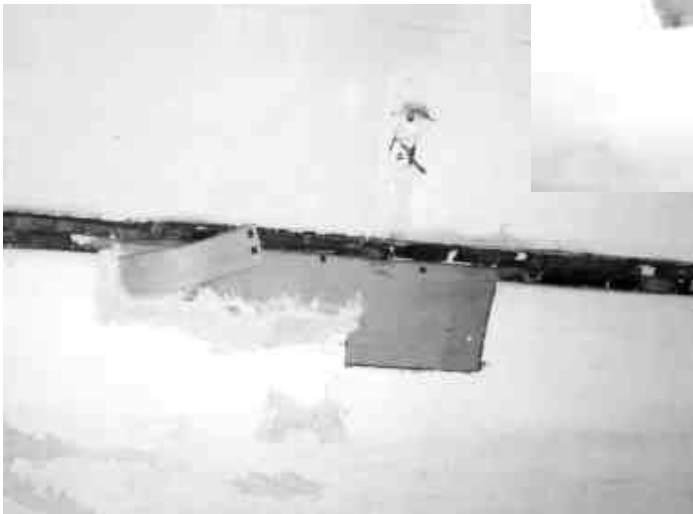
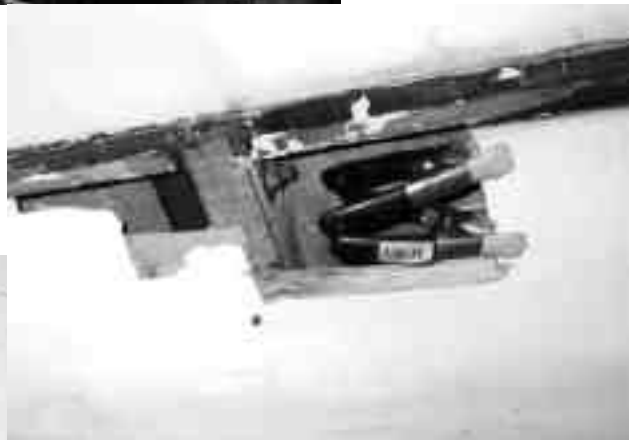


どのようなプログラムで白熱灯化を進めるのか、今後のレポートが期待される。

オハニ36の室内天井の現状は、ベニア板の劣化が著しい。このオリジナルの天井板を少しでも長持ちさせるため、接着剤の注入を実施した。



接着剤注入後、乾燥、固着するまで仮押さえする。



突発事故発生！

天井ベニアを指で押した途端、ベニアが割れてしまった。しかたなく、その部分を切り取って、新たなベニアで継ぎはぐことにした。



今回も中途半端なまま、とりあえずペイント作業に移った。ただし、前回に比べ一歩前進。使った塗料は市販の家庭用水性アクリル塗料だが、調色は前回の結果をもとに、よりオリジナルに近い色を出すことが出来た。この作業は前回から引き続き谷口さんが担当した。写真はマスキング作業。

????????????????????

車輛清掃ボランティアを終えて

私は昨年4月にトラストの会員になり、8月の運転日に初めてボランティアに参加しました。

初参加をした帰りの電車の中、事務局の米山さん・松本さんが、ボランティアの海老原さんや小城さんと、3月に予定している家山での修理・清掃の件を話しておられ、その中で座席のクリーニングの話が聞きました。そして私が「座席のクリーニングは何とか出来そうです」と、その方法について話しました。

私は15年前からハウス・インテリアのクリーニング業をしているので、機械や洗剤などもあるし、又、以前から一度車輛のクリーニングをしてみたいと思っていたので、とてもうれしく思いました。

それからの半年間はいろいろと考えて、二日間では何とか終わる方法をとっていたのですが、当日の作業は思ったよりスムーズに進み、満足できる結果でした。これも会員の方々の人海戦術のおかげです。皆さん実によく動いていました。

シートの搬出・養生・水くみ・洗剤の塗布及びブラッシング・機械によるすすぎ・その汚水の処理・タオルで仕上げ・床や壁の清掃と流れ作業で進み、時間も少し余裕が出たので床にもワックスをかけることが出来ました。

作業日の二日間はSL列車の運転回数も多く、汽笛が遠くでこだますると、気持ちはどうSLの方に行ってしまう、その度ごとに手が止まりしばし

休憩です。好きなビデオ撮影も1時間半も出来、充実した二日間でした。

又、オハニの天井・白熱灯の修理をする方々は「こつこつ」「もくもく」と云った感じで、時間をかけた根気のいる作業だと思いました。

そして夜の食事・近くの露天風呂での入浴・夜遅くまでの仲間との語らい、私にとっては夢のような二日間でした。

心配していたお天気にも恵まれ、無事に終わることが出来、何もかもが恵まれた状態だったように思います。又来年も頑張りましょう。参加者の皆様ごくろうさまでした。

天に感謝、仲間に感謝、大鉄さんに感謝、トラストに感謝。

伊東市 佐々木國司



だけとの事。その時は少しがっかりであったが、実際に朝もやをつけてDに一両だけ引かれた旧型客車がやってくるのを見ると、何とも言えない気分にはたれた。その時写した一枚がこれで、今まで自分の写した鉄道写真の内、最も気に入っているもののひとつである。内部は天井・座席ともクリーム色の明るい塗装であつたが、木の床と白熱灯はまぎれもなく旧客である。この旧客外側の塗装も明るいめの青でそれを称して片鉄のブルートレインとも呼ばれていた。

写した列車に飛び乗り、和気での約20分の貨車連結時間を利用して、一つ南側の清水駅手前まで向かう。やってきたのはさっきの客車一両だけのとは比べ物にならないぐらいの長編成の立派な列車であつた。しばらく前まではコンテナの前に数両の無蓋貨車があつて、それは壮観であつたとの事。片鉄はこの後3年間、事情があつて存続したが、この時が文字通り最後の花であつた。

思い出の写真館

31

廃線から5年たった片上鉄道

黄 葆生



西日本の代表的非電化路線であった片上鉄道が廃止になって、早いもので6月で満5年になる。この最大の特徴は、91年6月の廃線に至るまで一日一往復あった混合列車の存在である。もともと最後の3年間は貨車は殆ど使われることがなかったが。

創業以来の主な貨物は、柵原^{やなはら}鉱山で産する酸化鉄であった。が、だんだん採掘量が少なくなつた上に、円高で海外から良質な鉄鉱石が安価で入ってくるようになり、太刀打ちできなくなつてしまつた。片鉄としては、それでは鉄路の存続が不可能になるので、終点の片上のヤードをコンテナ基地にして、地元の窯業産物(耐火レンガ等)を国鉄コンテナに乗せて、山陽本線との接続駅である和気まで運ぶ仕事を1983年から始めた。しかし、これも国鉄のJR化に伴う合理化で88年3月をもって廃止されてしまつた。筆者はコンテナ貨物があと一週間で無くなるというある一日、最後のお別れと思い、朝の混合第一レに間に合うべく、前日姫路に宿泊して一番電車でかけつけた。

備前塩田駅で混合レを待ち受けるべく、駅長室でストープに当たりながら話を聞いていたら、その日は沿線の学校の休校日で客車は一両

いんふおめいしょん

定例会のお知らせ

日 時 6月19日(水) P.M.7:00～

場 所 北とぴあ 807 会議室

(JR王子駅北口／南北線王子駅5番出口・赤羽方向徒歩2分)

今年の総会でお約束しました定例会ですが、
事務局の都合で開催が遅れすみませんでした。
初参加の方も、どうぞお気軽にご参加下さい。

いんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょん

追憶の S L C 6 2

～勇者シロクニに捧げる讃歌～

写真・文 深田高一

解説 竹島紀元・久保田博・松本謙一・原口隆行

交通公社キャンブックス 定価 2060 円

北海道の原野を駆ける C 6 2 の魅力を、他とはまた違った視点
からも見せてくれる一冊です。あなたの本棚にも是非どうぞ。

いんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょんいんふおめいしょん



オリジナルの CD シングル
「峠に挑む！」付

グッズ紹介



会員の水谷さんが作った
東急の絵はがきとネクタイクリップです

絵はがき

- ・軽量高性能電車ことはじめ 東急の青ガエル 5000形
 - ・日本のステンレス車第1号 東急 5200形
 - ・昭和のはじめの関東郊外電車 東京横浜電鉄 510形
- 3枚セット 450円(送料サービス)

台車だけをデザインしたちょっとしゃれたネクタイクリップ

- ・5000形用 TS-301
- ・510形用 D-18 各2,000円(送料サービス)

申し込み・問い合わせ アトリエみずたに

TEL 03-3723-9160 FAX 03-3723-1522

編集後記

・補修作業と座席のクリーニング作業について詳しく載せてみましたが、ふだん作業に参加できない方でも、現場ではどの様な作業をしているのか、おわかり戴けたでしょうか。

・まだボランティア作業に参加されたことの無い方も、運転日には清掃や軽作業をやっていますので、ぜひ参加してみてください。初めての方でも充分にこなせる仕事ですし、充実感も味わえますよ!!

・最近、この会報を印刷しているプリンタで写真の出力がやりにくくなったのでメモリを買ったら4万もした。エヘン! もう午前3時、でも印刷が…。

財団法人日本ナショナルトラスト 鉄道サークル会報 第80号 1996年5月号

〒100 千代田区丸の内2-4-1 丸ビル414区 Phone 03-3214-2631 Fax 03-3214-2633